

事業ハイライト

期間：2008年4月～2010年6月

5つの重点的 取り組み

当社は現在、2008年度から2012年度までの5年間を対象期間とする経営計画の下、下記の5つを重点的な取り組みとして推進しています。

1. 発電設備規模の着実な増強

2008年 5月 当社初となる原子力発電所・大間原子力発電所(138.3万kW、青森県)を着工

2009年 7月 磯子火力発電所新2号機(60万kW、神奈川県)が営業運転を開始



大間原子力発電所外観(完成予想図)



カライドA発電所

2. 技術革新と新たなプロジェクトの創造

2008年 11月 日豪共同の酸素燃焼による石炭火力CCS技術実証プロジェクトを豪州カライド発電所にて本格始動

2009年 7月 「酸素吹石炭ガス化複合発電(IGCC)技術」および「CO₂分離回収技術」に関する大型実証試験のために、中国電力(株)と共同で新会社「大崎クールジェン(株)」を設立

3. 事業資産の価値向上

2010年 2月 鬼首地熱発電所(宮城県)を増出力(1.25万kW→1.5万kW)し、営業運転を開始

2010年 5月 田子倉発電所(福島県)3号機一括更新工事(39万kW→39.5万kW)が竣工し、営業運転を開始



田子倉発電所3号機更新工事



バーチウッド発電所

4. グローバルな事業展開

2008年 5月 米国バーチウッド発電所(石炭火力、24.2万kW)の権益を取得

2009年 6月 米国ロングアイランド2火力発電所(16万kW)の権益を取得

2009年 8月 石炭火力発電を主力とする中国 格盟国際能源有限公司の権益を取得

2009年 11月 タイ国SPPプロジェクト⁽¹⁾7件(ガス火力、計78万kW)の電力販売契約を締結

2010年 6月 北米で初の新規開発案件である米国オレンジ・グローブ発電所(ガス火力、9.6万kW)が営業運転を開始

5. 発電をコアとしたビジネスの多様化

2008年 8月 豪州ナラブライ炭鉱の権益取得に合意

2009年 3月 「広島市西部水資源再生センターにおける下水汚泥燃料化事業⁽²⁾」を開始

2010年 4月 石廊崎風力発電所(3.4万kW、静岡県)が運転を開始



石廊崎風力発電所

*1 SPP (Small Power Producers) プログラム：タイ国政府が、(1)小規模事業者への奨励を通じ、在来電源の副産物や再生エネルギーを活用してエネルギー利用率を上げること、

(2) 石油輸入・使用の削減を図ることを目的として1992年に創設したプログラム。

*2 下水汚泥燃料化事業：下水汚泥の炭化燃料製造技術を用い、施設的设计・施工・維持管理・運営・燃料化物販売・石炭火力発電所での混焼利用まで一貫体制で実施する、下水汚泥燃料リサイクル事業。